



3.11の大地震の時は、東京も嘗て無い揺れ方で、何人もの人が自分の最後を覚悟したということだ。

地震があったのが午後3時に近かったもので、多くの人が歩いて自宅に向かったものの、夕方までに帰宅できた人は少数で、多くは暗くなってから何時間も歩かざるを得なかったようだ。東京へ通勤しているというのは、そのような条件なのだ。

ところで、自宅へ戻っていざという時の備蓄がどれだけあったか、我が家の備えを日頃から承知していただろうか。地震の後、市中から姿を消した品物は、ペットボトルの水、パン、インスタント食品、缶詰、バナナ、米、懐中電灯、乾電池（単一、単二）、カセットコンロとガスボンベ、ガソリン等々であった。一つの家庭が気がついて買いに行くと同時に何万もの家庭でも同じことを考えるので、一挙に店頭の商品が無くなる。早い者勝ちの世界であった。では、このように地震が起きてからではなく日頃からどれだけの備蓄品があったらどうか。自治体などでは、最低三日分の水、食料を家庭で備蓄することを勧めていた。関東大震災程度を想定し

ていたようだが、勿論、その程度で終わる保証は何もない。あとは、自分の判断で上乗せをすることになる。正解は無い。

因みに、我が家の場合、およそ一週間分を目安に水、食料を備蓄している。四人家族なので、例えば飲水は約100リットル、缶詰、瓶詰類100個程度、カセットコンロ2台とボンベ10缶などである。地震の後で足りないと思ったのは、米（我が家の場合玄米）と車のガソリンなど。いま進めているのは、懐中電灯の、LED式への切り替え。

ガソリンは不勉強だった。一般家庭では、認可されたガソリン携行缶に20リットル持つのが精々のようだ。4月の初めに、被災した石巻の友人を見舞いに行った。鉄道は未回復、ガソリン事情は劣悪、食糧も不足しているなか、山形市内でレンタカーを借りたが、偶々これがハイブリッドエンジン。この車の燃費の良さには感心した。返却した時に確かめたところ、270キロ走って、ガソリンの消費はわずか14リットルだった。1リットル当たり、約20キロ走っていた。被災地を含む悪条件のなかであった。備蓄も大切だが、省エネに切り替えることが併せて有効であると知ったのが収穫だった。

東日本大震災の日の出来事・・・山口陽二



震災当日、私は東京ビッグサイトの見本市会場に居りました。

14:46～ 最初はゆっくりとその後は徐々に揺れは大きくなり、最も大きくなった時には、何かに掴まっていないと立ってられない状態になりました。会社の様子が気になり、すぐに電話しました。大きな被害もなく無事とのことでひと安心しました。その後は、携帯電話が全く繋がらない状態となり、連絡を取ろうとしても公衆電話の前は長蛇の列でとても並ぶ気になりませんでした。余震が起るたびに会場から屋外に逃げだす訳ですが、慣れてくると意外とスムーズに外に出られるようになりました。見本市の展示物は簡単に出来ているため掴まるには頼りなく、高い展示物には近づけない状態となりました。展示物の搬入に使われるシャッターは、揺れる度に物凄い音と変形に驚かされました。余震の度に、津波に注意、上の階に上がるようにとの指示があり、見本市の雰囲気ではなくなり、30分ほど早く終わりとなりました。ところが帰ろうにも臨海線もゆりかもめも動いていません、唯一動いていたのはバスでした。しかし、並んでいる人が多すぎて、いつ乗れるかわからないので、会場近くで食事をすることにしました。

17:30～ 開いているお店が少ないことと、食材がなくて閉店しているところばかりでしたが、やっとのことで、お店を見つけ簡単な食事が出来ました。ガスが使えないので温かい

ものが出せない状態でしたが、何もないよりはましなので入ることにしました。電車が動くことを期待していたのですが、19時過ぎになっても臨海線もゆりかもめも動きませんでした。

19:30～ レインボーブリッジは車専用と思っていたのですが歩いて渡れることが分かりました。レインボーブリッジを歩いて渡ることなど二度とないと思い楽しく歩きました。途中何本か川を渡りましたが、川面を見ると渦を巻いているようで、津波による逆流を思わせました。

電車が動く可能性が分からないので、橋を渡り終えたところで東京タワーの近くに住む友人に電話し、運良く一回だけつながり、電車が動くまで休ませて貰うことにしました。田町駅では、帰れない人達で溢れていました。大江戸線が動くとの話もありましたが、とても乗れる状況になく終電の延長もないとのことで、電車に乗ることを諦め、友人の車を借りて帰ることにしました。テレビで車の渋滞を伝えていたのですが、他に方法がないので車で帰ることにしました。

1:00～ 同乗者を順番に送り届けたために、会社に着いたのは朝の5時となりました。とりあえず、無事であったことを感謝した次第です。

被災にあわれた方には申し訳ないのですが、東京で生活しているものとしては、いい体験をさせてもらったと思っています。社内の地震対策、帰宅の仕方、連絡網の整備などこれから取り組みたいと思っています。